



おとひめ

令和7年8月28日(木)



結果だけならジャンケンでいい

山口小学校長 吉村 康介

長い夏休みを終え、子どもたちが再び学校に戻ってきました。久しぶりに友だちと顔を合わせ、笑顔で言葉を交わす姿に、学校が命を吹き返したような喜びを感じます。夏休み明け（昔なら二学期）は、子どもたちが大きく成長する季節です。学習にじっくり取り組む時間が増え、行事も盛りだくさんです。子どもたちが一回りも二回りも成長できるよう、私たち教職員も精いっぱい支援してまいります。

さて、今年の夏は、連日の暑さとともに、県立岐阜商業高等学校の甲子園での活躍が大きな話題となりました。子どもたちも保護者の皆様も、テレビや新聞で伝えられる熱戦に胸を熱くされたことでしょう。私自身も、選手たちが仲間と力を合わせ、最後まであきらめず全力を尽くす姿に、深い感動を覚えました。選手や監督が積み重ねてきた並々ならぬ努力と苦勞が、十六年ぶりのベスト4というすばらしい結果につながったことを、自分のことのように嬉しく思います。

学校も、この夏の甲子園のように、熱く盛り上がる運動会のシーズンを迎えます。子どもたちが心一つにして挑む、学校生活の大きな節目となる行事です。自分たちの力で創り上げる運動会が、子どもたちにとって大きな誇りとなることを期待しています。

運動会を迎えるにあたり、一つ紹介したい言葉があります。私が担任をしていたころによく子どもたちに話してきたもので、将棋の羽生善治名人の言葉です。

「勝ち負けにはもちろんこだわるが、大切なのは過程です。結果だけならジャンケンでいい。」

この言葉には、とても大切な意味が込められていると感じます。もし「勝った」「負けた」という結果だけがすべてなら、わざわざ練習を重ねたり、仲間と声をかけ合ったりする必要はありません。極端な話、ジャンケンで勝敗を決めれば、それで済んでしまいます。でも、私たちが本当に大切にしたいのは、そこに至るまでの「過程」です。うまくいかなくて悩んだ日、友だちと励まし合った時間、何度も挑戦してやっとできるようになった瞬間、そうした一つひとつの積み重ねが、子どもたちの心を育て、未来へとつながる力になると信じています。

運動会の練習は、決して楽なものではありません。暑さの中での練習、思い通りにいかないもどかしさ、時には涙が出ることもあるでしょう。しかし、だからこそ、子どもたちは本気になり、仲間と支え合いながら、確かな成長を遂げていきます。

夏休み明けのこの時期も、子どもたちの歩みに寄り添いながら、ひとつひとつの成長を、ご家庭と学校とで一緒に喜び合えるような毎日をつくっていきたいと思います。子どもたちのがんばりに、たくさん拍手と、あたたかい言葉を届けていただければ嬉しいです。どうぞよろしくお願ひします。